

Shell Paraol 250

版番号 1.1

改訂日 2024. 07. 26

印刷日 2024. 11. 04

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称 : Shell Paraol 250

製品コード : 001J7527

CAS番号 : 64741-73-7

供給者情報

供給者の会社名称、住所及び電話番号 : Shell Lubricants Japan K.K.
Pacific Century Place Marunouchi 12F
1-11-1, Marunouchi
Chiyoda-ku
Tokyo 100-6212 Japan

電話番号 : (+81) 03-3218-1780

FAX番号 : (+81) 03-3218-1781

緊急連絡電話番号 弊社商品に関するすべての問い合わせは以下にお願いします。
ルブカスタマーサービスセンター（ルブCSC）
Tel. 0120-064-315 / Fax. 0120-264-315（フリーダイヤル）
Eメール. Inquiries-Lubes-JP@shell.com
受付時間 9:00から17:30 ※土日祝祭日および弊社休業日などを除くSDSに関する問い合わせ先 : このMSDSのコンテンツについてのお問い合わせは、
lubricantSDS@shell.com 宛 にEメールしてください。

推奨用途及び使用上の制限 推

奨用途 : 金属加工油。

使用上の制限 : この物質は、専門家の助言なしに推奨される以外の目的で使用することはできません。

2. 危険有害性の要約

化学品のGHS分類

引火性液体 : 区分4

誤えん有害性 : 区分1

GHSラベル要素

Shell Paraol 250

版番号 1.1

改訂日 2024. 07. 26

印刷日 2024. 11. 04

絵表示又はシンボル

:



注意喚起語

: 危険

危険有害性情報

: 物理化学的危険性:
H227 可燃性液体。
健康有害性:
H304 飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ。
環境有害性:
GHSの基準では環境障害を及ぼす物質として分類されていない。

注意書き

:

安全対策:

P210 熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。

P243 静電気放電に対する予防措置を講ずること。

P280 保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。

応急措置:

P370 + P378 火災の場合：消火するために適切な手段を使用すること。

P301+ P310 飲み込んだ場合：直ちに毒物センター、または医師に連絡してください。

P331 無理に吐かせないこと。

保管:

P403 + P235 換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。

P405 施錠して保管すること。

廃棄:

P501 内容物／容器は、国際／国／都道府県／市町村の規則に従って廃棄すること。

危険有害成分

: 石油蒸留物を含有しています。

GHS分類に該当しない他の危険有害性

引火性/爆発性の蒸気-空気混合気体を生成することがある。この素材は静電気を蓄積しやすい性質がある。そのため、適切な接地およびアースを施した場合でも帯電が生じる可能性がある。帯電量が一定値を超えると、静電気放電や可燃性空気蒸気混合物の引火を引き起こす可能性がある。繰り返しの曝露により、皮膚の乾燥またはひび割れを引き起こすことがある。

Shell Paraol 250

版番号 1.1

改訂日 2024.07.26

印刷日 2024.11.04

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 : 化学物質
化学名又は一般名 : 石油留出物

危険有害成分

化学名又は一般名	CAS番号	分類	含有量 (% w/w)
Distillates (petroleum), alkylate	64741-73-7	Asp. Tox. 1; H304	100

省略記号の説明はセクション 16 を参照する。

4. 応急措置

一般的アドバイス : 通常条件での使用の場合、健康上有害であると思われる。

吸入した場合 : 通常の使用条件下では治療は必要ありません。
症状が続く場合は、医師に相談すること。

皮膚に付着した場合 : 汚染された衣服を脱ぐこと。暴露面を水で洗い流し、その後、可能なら石鹸で洗うこと。
刺激が持続する場合は、医師の診察をうけてください。

眼に入った場合 : 大量の水で眼を洗い流してください。
コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
刺激が持続する場合は、医師の診察をうけてください。

飲み込んだ場合 : お住まいの地域／最寄の施設の緊急連絡先に電話してください。
飲み込んだ場合は無理に吐かせず、最寄の医療施設に搬送して治療を受けさせること。自然に嘔吐する場合は、誤嚥を防ぐため、頭部が腰より下に来るようにする。
以下に示す遅発性の兆候および症状のいずれかが、事故発生から6時間以内に発現した場合は、最寄りの医療施設へ搬送してください： 101° F (38.3° C) を超える発熱、息切れ、胸部うっ血、継続的なせき、または喘鳴（ぜいぜい息をすること）。

急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状 : 通常の使用条件下では、吸入の危険性があるとは考え難くせん。
考えられる呼吸刺激の兆候や症状には、一時的な鼻や喉の灼熱感、咳、呼吸困難などが含まれることがあります。

Shell Paraol 250

版番号 1.1

改訂日 2024.07.26

印刷日 2024.11.04

通常の使用条件下では特別な危険性はない。
皮膚炎の兆候および症状には灼熱感、赤み、腫れなどがある。

通常の使用条件下では特別な危険性はない。
眼刺激の兆候や症状には、灼熱感、発赤、腫れ、および／またはかすみ目などがあります。

物質が肺に入った場合の兆候および症状は、咳、窒息、ぜん
鳴音、呼吸困難、胸部うっ血、息切れ、および／または発熱
が挙げられる。

以下に示す遅発性の兆候および症状のいずれかが、事故発生
から6時間以内に発現した場合は、最寄りの医療施設へ搬送し
てください： 101° F (38.3° C) を超える発熱、息切れ、
胸部うっ血、継続的なせき、または喘鳴（ぜいぜい息をする
こと）。

脱脂している皮膚炎の兆候および症状には、灼熱感 および／
または乾燥、ひび割れの外観が含まれる。

応急措置をする者の保護 : 救急処置を行う場合は、事故や怪我、周囲の環境に応じて個人用保護具を必ず着用してください。

医師に対する特別な注意事項 : 医師または毒物管理センターに電話し、指示を求めてください。
化学性肺臓炎の可能性が
あります。
対処療法を行うこと。

5. 火災時の措置

適切な消火剤 : 泡消火剤、水または噴霧。小規模火災の場合のみ粉末消火剤、二酸化炭素、砂または土の使用可。

使ってはならない消火剤 : ジェット水を使用しないこと。

特有の危険有害性 : 関係者以外を火災区域から退去させる。
有害な燃焼生成物は以下を含有する：
浮遊性の固形/液体の粒子状物質とガスの複合混合物（煙）。
一酸化炭素
未確認の有機および無機化合物。
引火点未満の温度でさえも、可燃性蒸気が存在しうる。
蒸気は空気よりも重く、地面に沿って広がり、離れた場所で
引火する可能性がある。
水面に浮かび、再引火することがある。

Shell Paraol 250

版番号 1.1

改訂日 2024. 07. 26

印刷日 2024. 11. 04

- 特有の消火方法 : 化学物質の火災に対する標準の手順。
水を噴霧して隣接の容器を冷却し続けること。
- 消火を行う者の保護 : 化学的耐性のある手袋などの適切な保護具を着用し、物質の流出による広範囲に及ぶ接触が予想される場合には化学的耐性のある衣服も着用してください。密閉空間で火気に接近する際は、自給式呼吸器を着用してください。関連基準（欧州の場合：EN469）に基づいて承認された消防服を選択してください。

6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置 :
- 関連する国内及び国際法規を遵守すること。
一般市民または環境への曝露が起こるか、或いは起こりそうな場合は、行政関係機関に通知する。
流出が著しく回収できない場合は、地方自治体に通報する。
 - 皮膚、目、衣服との接触を避けること。
危険区域を隔離し、不用または無装備な人の立ち入りを拒否する。
ガスや蒸気を吸い込まないようにしてください。
電気機器を操作しないでください。
- 環境に対する注意事項 :
- 漏れを止めるにあたって人に危険がなければ、漏れを止める。周囲の発火源となる全てのものを取り除く。（生成物および消火用水の）適切な格納容器を用いることにより環境汚染を回避する。砂、土、またはその他の適切な障壁を用いて、下水溝、水路、河川への拡散または流入を防止する。例えば、霧を噴霧して、蒸気を分散させるか、またはその蒸気の流れを安全な場所に誘導する。静電気に対する予防措置を講ずること。接地（アース）を全ての機器に接続して、確実な導電性を確保してください。
可燃性ガスの検知器で区域を監視する。
- 封じ込め及び浄化の方法及び機材 :
- 液体の流出量が少ない場合は（ドラム缶1缶未満）、回収または安全な廃棄を行うため、ラベルを貼付した密閉式の製品コンテナへ機械的な手段で運搬して、回収または安全な廃棄を行うこと。残留物は蒸発させるか、適切な吸収剤に吸収させ、安全に処分すること。汚染した土壌は除去し、安全に処分すること。
 - 液体の流出量が多い場合は（ドラム缶2缶以上）、バキュームカーなど機械的な手段で再利用タンクに運搬して、回収または安全な廃棄を行うこと。残留物を水で洗い流さないこと。そのまま汚水として扱うこと。残留物は蒸発させるか、適切な吸収剤に吸収させ、安全に処分すること。汚染した土壌は除去し、安全に処分すること。

汚染領域を完全に換気する。
敷地が汚染された場合、汚染除去には専門家の意見が必要な場合があります。

追加アドバイス : 保護具の選択についての指針は、この製品安全データシート（SDS）の第8項を参照すること
漏洩物質の廃棄に関するガイダンスについては、このSDSの第13項を参照。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策 : 蒸気の吸入や物質との接触を避けること。換気が十分になされている場所でのみ使用すること。取り扱い後は十分に手洗いすること。保護具の選択についての指針は、この製品安全データシート（SDS）の8章を参照すること。
この物質の安全な取り扱い、保管および廃棄を適切に行うための管理方法を決定する際、支援材料として現地環境のリスク評価へ入力するデータとして、このデータシートの情報を利用する。
取り扱い並びに貯蔵施設に関して地域の全規制に準拠していることを確認する。

安全取扱注意事項 : 蒸気および／またはミストの吸入を避ける。
皮膚、目、衣服との接触を避けること。
如何なる裸火も消す。禁煙。発火源を除去する。火花を避ける。
蒸気、霧、またはミストを吸入する危険性がある場合、局所的に換気を行ってください。
大量貯蔵容器は防油堤で囲むべきである。
使用中は、飲食は控えてください。
蒸気は空気よりも重く、地面に沿って広がり、離れた場所で引火する可能性がある。

顔面の保護具 : 材料取扱い時に飛沫が眼に入る可能性がある場合には眼用の保護装具を用いることが推奨される。

衛生対策 : 食事、飲用、喫煙、トイレ使用前に手を洗う。
再使用の前に、汚染された衣類を洗濯すること。
飲み込まないこと。飲み込んだ場合は、直ちに医師の診察を受けること。

接触回避などを記載する : 強酸化剤。

Shell Paraol 250

版番号 1.1

改訂日 2024. 07. 26

印刷日 2024. 11. 04

製品輸送

: そのため、適切な接地およびアースを施した場合でも帯電が生じる可能性がある。帯電量が一定値を超えると、静電気放電や可燃性空気蒸気混合物の引火を引き起こす可能性がある。静電気の帯電によりその他の危険が生じる可能性のある作業には注意が必要です。これらの作業には、ポンプ給油（特に乱流）や混合、フィルタ、スプラッシュフィリング、タンクやコンテナの清掃・給油、サンプリング、スイッチローディング、検尺、バキューム車操作、機械動作などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。これらの作業は、スパーク形成などの静電気放電につながる可能性があります。静電気放電を防止するため、ポンプ採油中は線速度を抑える必要があります（給油管の直径の2倍に浸るまでは ≤ 1 m/s、その後は ≤ 7 m/s）。スプラッシュフィリングは避けてください。給油や排油、機器の取り扱い操作に圧縮空気は使用しないでください。

「取扱い」セクションのガイドラインを参照してください。

保管

安全な保管条件

: 本製品の包装・保管に関する特定の法律の詳細は、15項を参照してください。

その他のデータ

: 貯蔵温度：
常温

大量貯蔵容器は防油堤で囲むべきである。

タンクは、熱や火花の発生源から離れたところに配置してください。

貯蔵タンクの洗浄、点検および整備は専門家が行い、厳密な手順の実施および注意を必要とする。

日光、着火源および他の熱源から離れ、十分に換気された防油堤の中で貯蔵すること。

エアゾル、可燃物、酸化剤、腐食性薬品、ヒトにも環境にも有害でなく毒性でない他の可燃製品に近付けないこと。

ポンプ給油中には帯電が生じます。

静電放は火災を起こすことがある。

貯蔵タンクの上部空間に燃焼/爆発を誘発可能な量の蒸気が溜まっている場合があるため、可燃性を見なす必要があります。

常温で保管。

安全な容器包装材料

: 適した材質: 容器および容器の内面は軟鋼またはステンレス鋼を使用してください。、容器の内面塗装には容器の内面塗装には、エポキシ塗料、ケイ酸亜鉛塗料を用いる。

適さない材質: 天然ゴム、ブチルまたはニトリルゴム類との長期の接触を避ける。

Shell Paraol 250

版番号 1.1

改訂日 2024. 07. 26

印刷日 2024. 11. 04

容器に関する注意 : 容器の上或いは近くで、切断したり、穴をあけたり、こすったり、溶接したり、同様な作業をしない。

特定の利用法 : 非該当

帯電性物質と見なされる液体の安全な取り扱い方法については、追加資料を参照してください。

American Petroleum Institute 2003 (Protection Against Ignitions Arising out of Static, Lightning and Stray Currents) または National Fire Protection Agency 77 (Recommended Practices on Static Electricity)。

IEC TS 60079-32-1 : 静電ハザード、ガイダンス

8. ばく露防止及び保護措置

作業環境における成分別暴露限界/許容濃度

成分	CAS番号	指標 (暴露形態)	管理濃度 / 許容濃度	出典
Oil mist, mineral	未特定			日本産業衛生学会 (許容濃度)
	詳細情報: 発がん物質, 「第1群」はヒトに対して発がん性があると判断できる物質である。この群に分類される物質は、疫学研究からの十分な証拠がある。			
Oil mist, mineral	未特定	OEL-M (ミスト)	3 mg/m ³	日本産業衛生学会 (許容濃度)
	詳細情報: 発がん以外の健康影響を指標として許容濃度が示されている物質。III. 発がん性分類の前文参照, 発がん物質, 「第1群」はヒトに対して発がん性があると判断できる物質である。この群に分類される物質は、疫学研究からの十分な証拠がある。			
Oil mist, mineral	未特定	TWA (ミスト)	5 mg/m ³	OSHA Z-1
Oil mist, mineral	未特定	TWA (吸入濃度)	5 mg/m ³	ACGIH

生物学的職業暴露限度

生物学的限度は指定されていない。

監視方法

職業暴露限度の遵守と曝露制御の妥当性を図るためには、作業者が呼吸する場所や一般的な職場の物質濃度をモニタリングする必要があると考えられる。一部の物質については、生物学的なモニタリングが適している場合もある。

検証済みの暴露測定方法は資格を有する人物が実施し、またサンプルの分析は認定を受けた研究所で行う必要があります。

推奨するエアモニタリング法の情報源の例としては、下記に示されている。または製造元に連絡

Shell Paraol 250

版番号 1.1

改訂日 2024. 07. 26

印刷日 2024. 11. 04

する。さらに国内規定の方法を利用する。

National Institute of Occupational Safety and Health (NIOSH), USA: Manual of Analytical Methods <http://www.cdc.gov/niosh/>

Occupational Safety and Health Administration (OSHA), USA: Sampling and Analytical Methods <http://www.osha.gov/>

Health and Safety Executive (HSE), UK: Methods for the Determination of Hazardous Substances <http://www.hse.gov.uk/>

Institut für Arbeitsschutz Deutschen Gesetzlichen Unfallversicherung (IFA), Germany. <http://www.dguv.de/inhalt/index.jsp>

L'Institut National de Recherche et de Sécurité, (INRS), France <http://www.inrs.fr/accueil>

労働者の健康障害を防止するため化学物質の濃度基準値とその適用方法などを定めました (mhlw.go.jp)

設備対策

- : 必要な保護レベルと管理のタイプは、潜在的な曝露条件によって異なる。現地環境のリスク評価に基づいて管理方法を選択する。適切な方法には、以下のものがある。
 - 可能な限り密封系を使うこと。
 - 曝露指標基準／制限未満に作業環境濃度を制御するために適切な防爆用の換気をする。
 - 局所排気装置が推奨される。
 - 消火モニターおよび放水システムを推奨する。
 - 緊急時用の洗眼器およびシャワー
 - 製品を加熱するか、噴霧するか、または霧生成させる場合、空气中濃度を上昇させる潜在性が高い。

一般情報:

素材の取扱い後や飲食・喫煙の前に手を洗うなど、常に身の回りの正しい衛生措置を実行するようにしてください。汚染物質を除去するため、作業衣や保護具は定期的に洗浄します。汚染され、かつ洗浄が不可能な衣類や履物は廃棄してください。適切な清掃管理を行ってください。

安全な取り扱いや制御装置のメンテナンスの手順を明確に定めてください。

本製品を用いた通常業務に伴う危険性とその管理手順について、作業員に対する教育およびトレーニングを実施してください。

暴露管理に用いる装置（個人用保護具や局所排気装置）が適切なものであるか、またこれらに対し適切なテストやメンテナンスが行われているか確認してください。

システムの慣らし運転や保守の前には、システムからすべての液体を排出させてください。

システムを液体を排出した状態に保ち、排出した液体はリサイクルあるいは廃棄まで密封できる保管容器に入れてください。

Shell Paraol 250

版番号 1.1

改訂日 2024.07.26

印刷日 2024.11.04

保護具

保護対策

保護具（PPE）は、推奨される国家規格を満たさなければならない。保護具（PPE）供給業者に問い合わせること。

呼吸用保護具

： 技術管理により作業環境濃度が作業員の健康を保護するのに十分なレベルで維持されていない場合、特定の使用条件に適合し、且つ関連する法規を満たすのに適した呼吸用保護具を選定すること。

呼吸用保護具提供者に問い合わせる。

空気フィルタ付呼吸器が適さない場合（例えば、作業環境濃度が高い、酸素欠乏の危険性、閉鎖空間）、適切な陽圧呼吸器を使用する。

空気フィルタ付呼吸器が適している場合、適切なマスクとフィルタの組み合わせを選ぶ。

エアフィルタ呼吸用マスクが、使用条件に適切である場合：

有機ガスおよび有機蒸気[沸点：>65 °C (149 ° F)]に適切なフィルタを選ぶ。

手の保護具
備考

： 製品に手を触れる可能性がある場合、関連する基準（たとえば欧州のEN374、米国のF739）で承認された、以下の素材で作られた手袋を使用することにより、適切な化学防護ができる。より長期間の保護：ブチルゴム ニトリルゴム手袋。

偶発的な接触/飛沫防止：ニトリルゴム手袋。連続的に接触する場合は、破過時間が240分以上の手袋を着用してください。（破過時間が480分以上の手袋がある場合は、そちらを着用してください）。短時間/飛沫の保護に使用する場合も、上記の手袋を着用してください。ただし、この保護レベルを備えた手袋は入手できない可能性があるため、その場合は、適切なメンテナンスと交換が行われていれば、破過時間の短い手袋で代替することが可能です。手袋の耐薬品性は、素材の組成によるため、手袋の厚みから耐性の有無を的確に判断することはできません。手袋の厚みは、メーカーやモデルによって異なりますが、通常 0.35 mm 以上のものを着用してください。手袋の適合性および耐久性は、接触の頻度や期間、手袋の素材の耐薬品性、手袋の厚さ、使用者の器用さなどの利用状況により異なる。常に手袋販売業者の意見を求めること。汚染された手袋は交換すること。個人的衛生を維持することは、手の効果的なケアに重要な要素です。手袋は清潔な手に着用してください。手袋を使用したあとは、手は、洗浄して完全に乾燥させる必要があります。芳香剤を加えていないモイスチャライザーを使用することを推奨します。

眼、顔面の保護具

： 材料取扱い時に飛沫が眼に入る可能性がある場合には眼用の

Shell Paraol 250

版番号 1.1

改訂日 2024.07.26

印刷日 2024.11.04

保護装具を用いることが推奨される。

皮膚及び身体の保護具 : 通常の状況下で使用する場合、皮膚の保護は不要です。
長時間または繰り返し物質に曝露される場合は、曝露される体の部分を防水性の衣類で覆ってください。
物質への反復および/または長期皮膚曝露の可能性が高い場合は、EN374 基準 準拠試験済みの適切な手袋を着用し、皮膚の保護に関する従業員向けプログラムを提供すること。

当該地域のリスク評価により認められている場合は、静電気防止および難燃性防護服を着用すること。

衛生対策 : 食事、飲用、喫煙、トイレ使用前に手を洗う。
再使用前に、汚染された衣類を洗濯すること。
飲み込まないこと。飲み込んだ場合は、直ちに医師の診察を受けること。

環境における排出管理

一般的アドバイス : 蒸発物質を含む排気の実環境への放出に関しては、揮発性物質の排出規制に関する国内指針を遵守しなければならない。
環境中への放出を最小限にしてください。地域の環境規制を確実に遵守するため、環境アセスメントを実施する必要があります。
偶発的放出に対する措置については、6項を参照してください。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態 : 室温で液体
色 : 透明
臭い : データ入手不可能。
流動点 : $-60.0^{\circ}\text{C} / -76.0^{\circ}\text{F}$
方法: JIS K 2269
融点/凝固点 : データ入手不可能。
沸点/沸騰範囲 : データ入手不可能。
引火点 : $90^{\circ}\text{C} / 194^{\circ}\text{F}$
方法: ASTM D93 (PMCC)

可燃性

可燃性 (固体、気体) : 可燃性液体

爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界

Shell Paraol 250

版番号 1.1

改訂日 2024.07.26

印刷日 2024.11.04

蒸気圧	: データ入手不可能。
密度及び／又は相対密度	
密度	: 798 kg/m ³ (15.0 ° C / 59.0 ° F) 方法: ASTM D1298
溶解度	
水溶性	: 無視できるほど僅か
n-オクタノール／水分配係数 (log 値)	: log Pow: > 6 (類似製品に関する情報に基く)
粘度	
動粘性率(動粘度)	: 2.5 mm ² /s (40.0 ° C / 104.0 ° F) 方法: JIS K 2283
粒子特性	
粒子サイズ	: データ入手不可能。 データ入手不可能。

10. 安定性及び反応性

反応性	: この製品は、以下の項の記載内容以外の反応危険性は引き起こしません。
化学的安定性	: 保管条件等に従い処理および保管した場合、危険有害性反応は起こらないと考えられます 通常の使用条件下で安定。
危険有害反応可能性	: 強酸化剤と反応する。
避けるべき条件	: 熱、スパーク、火気、およびその他の発火源を避ける。 特定の状況下において、製品は静電気により発火する可能性があります。
混触危険物質	: 強酸化剤。
危険有害な分解生成物	: 通常の保管の中では、危険な分解生成物の形成はないと考えられる。 熱分解は使用状況に大きく左右される。この物質が燃焼または熱劣化や酸化劣化の影響を受けると、一酸化炭素、二酸化

Shell Paraol 250

版番号 1.1

改訂日 2024.07.26

印刷日 2024.11.04

炭素、硫黄酸化物、および未同定の有機化合物などの空中を浮遊する固体、液体、気体の複合混合物が生成される。

11. 有害性情報

評価基準 : 提供された情報は、類似の物質から取得されたデータに基づいています。
特に記述がない限り、データは本製品に関する包括的なものであり、個々の成分に関するものではない。

可能性のある暴露経路の情報 : 曝露は、吸入、飲み込み摂取、皮膚からの吸収、皮膚または眼の接触、思わぬ誤飲を介して起こり得る。

急性毒性

製品:

急性毒性（経口） : LD 50 ラット, オスおよびメス: > 5,000 mg/kg
方法: OECD 試験ガイドライン 401
備考: 入手可能なデータに基づくと分類基準は満たされない。

急性毒性（吸入） : LC 50 ラット, オスおよびメス: > 2 -<= 10 mg/l
曝露時間: 4 h
試験環境: 蒸気
方法: OECD テストガイドライン 403 と同等または類似のテスト
備考: 殆ど飽和状態の蒸気濃度より大きい LC50
入手可能なデータに基づくと分類基準は満たされない。

急性毒性（経皮） : LD 50 ラット, オスおよびメス: > 2,000 mg/kg
方法: OECD テストガイドライン 402 と同等または類似のテスト
備考: 入手可能なデータに基づくと分類基準は満たされない。

皮膚腐食性/刺激性

製品:

種: ウサギ
方法: OECD テストガイドライン 404 と同等または類似の試験
備考: 皮膚に中程度の刺激性(ただし、分類するには不十分), 長時間/反復接触は、皮膚炎を引き起す皮膚の脱脂の原因になる可能性がある。

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性

製品:

種: ウサギ
方法: OECD 試験ガイドライン 405
備考: 入手可能なデータに基づくと分類基準は満たされない。

Shell Paraol 250

版番号 1.1

改訂日 2024. 07. 26

印刷日 2024. 11. 04

呼吸器感作性又は皮膚感作性

製品:

種: モルモット

方法: OECD 試験ガイドライン 406

備考: 入手可能なデータに基づく分類基準は満たされない。

生殖細胞変異原性

製品:

- in vitro での遺伝毒性 : 方法: OECDガイドライン471と同等または類似のテスト
備考: 入手可能なデータに基づく分類基準は満たされない。
- : 方法: OECDテストガイドライン473と同等または類似のテスト
備考: 入手可能なデータに基づく分類基準は満たされない。
- : 方法: OECDテストガイドライン476と同等または類似のテスト
備考: 入手可能なデータに基づく分類基準は満たされない。
- : テスト種: マウス方法: OECDテストガイドライン474と同等または類似のテスト
備考: 入手可能なデータに基づく分類基準は満たされない。

生殖細胞変異原性-アセスメント : この製品はカテゴリ 1A/1B の分類基準を満たしていません。

発がん性

製品:

種: ラット, (オスおよびメス)

投与経路: 吸入

方法: OECDテストガイドライン453と同等または類似のテスト

備考: 証拠の重要性からすると、発がん性物質として分類されない

種: マウス, (オスおよびメス)

投与経路: 吸入

方法: OECDテストガイドライン453と同等または類似のテスト

備考: 証拠の重要性からすると、発がん性物質として分類されない

発がん性 - アセスメント : この製品はカテゴリ 1A/1B の分類基準を満たしていません。

材質	GHS/CLP 発がん性分類
高度に精製された鉱物油	発癌性の分類なし

生殖毒性

Shell Paraol 250

版番号 1.1

改訂日 2024.07.26

印刷日 2024.11.04

製品:

: 種: ラット
性: オスおよびメス
投与経路: 経口

方法: OECD 試験ガイドライン 416
備考: 入手可能なデータに基づく分類基準は満たされない。

胎児の発育への影響

: 種: ラット, メス
投与経路: 経口
方法: OECDテストガイドライン414と同等または類似のテスト
備考: 入手可能なデータに基づく分類基準は満たされない。
種: ラット, メス
投与経路: 吸入
方法: OECDテストガイドライン414と同等または類似のテスト
備考: 入手可能なデータに基づく分類基準は満たされない。

生殖毒性 - アセスメント : この製品はカテゴリ 1A/1B の分類基準を満たしていません。

特定標的臓器毒性, 単回ばく露

製品:

備考: 入手可能なデータに基づく分類基準は満たされない。

特定標的臓器毒性, 反復ばく露

製品:

備考: 入手可能なデータに基づく分類基準は満たされない。

反復投与毒性

製品:

ラット, オスおよびメス:
投与経路: 経口
方法: OECDテストガイドライン408と同等または類似のテスト
標的臓器: 特定標的臓器は認められない。

ラット, オスおよびメス:
投与経路: 吸入
試験環境: 蒸気
方法: OECDテストガイドライン413と同等または類似のテスト
標的臓器: 特定標的臓器は認められない。

誤えん有害性

Shell Paraol 250

版番号 1.1

改訂日 2024. 07. 26

印刷日 2024. 11. 04

製品:

飲み込んだり嘔吐した時に肺への吸引により、致命的な化学物質起因の肺炎を引き起こすことがある。

詳細情報

製品:

備考: 各種規制の枠組みに応じた他の機関による分類が存在する可能性がある。

12. 環境影響情報

評価基準

: 本製品に関する生態毒性データは、不完全である。下記の情報は、構成成分の部分的情報と類似製品の生態毒性に基いている。
特に記述がない限り、データは本製品に関する包括的なものであり、個々の成分に関するものではない。

生態毒性

製品:

魚毒性 (急性毒性) : LL50 (Oncorhynchus mykiss (ニジマス)): > 1,000 mg/l
曝露時間: 96 h
方法: OECD 試験ガイドライン 203
備考: 実質的に毒性はない:
LL/EL/IL50 >100 mg/l

甲殻類への毒性 (急性毒性) : EL50 (Daphnia magna (オオミジンコ)): > 1,000 mg/l
曝露時間: 48 h
方法: OECD 試験ガイドライン 202
備考: 実質的に毒性はない:
LL/EL/IL50 >100 mg/l

藻/水生植物への毒性 (急性毒性) : EL50 (Pseudokirchneriella subcapitata (セレナストラム・カプリコルナタム)): > 1,000 mg/l
曝露時間: 72 h
方法: OECD 試験ガイドライン 201
備考: 実質的に毒性はない:
LL/EL/IL50 >100 mg/l

魚毒性 (慢性毒性) : 備考: データ入手不可能。

甲殻類への毒性 (慢性毒性) : 備考: データ入手不可能。

微生物への毒性 (急性毒性) : 備考: データ入手不可能。

Shell Paraol 250

版番号 1.1

改訂日 2024.07.26

印刷日 2024.11.04

残留性・分解性

製品:

生分解性 : 生分解: 80 %
曝露時間: 28 d
方法: OECD 試験ガイドライン 301F
備考: 容易に生分解できる。、空気中の光化学反応により迅速に酸化する。

生態蓄積性

製品:

生態蓄積性 : 備考: 潜在的蓄積性を有する。

n-オクタノール／水分配係数 (log 値) : log Pow: > 6備考: (類似製品に関する情報に基づく)

土壤中の移動性

製品:

移動性 : 備考: 水に浮かぶ。、土壤中に浸透すると、土壤粒子に吸着して移動しなくなります。
備考: 水に浮かぶ。

他の有害影響

製品:

PBT および vPvB の評価結果 : 本物質は持続性や生物濃縮性、有毒性の審査基準を満たしていないので、PBT または vPvB とはみなされません。

オゾン層への有害性

非該当

13. 廃棄上の注意

廃棄方法

化学品 (残余廃棄物) : 出来れば、再生利用または再使用すること。
廃棄物排出者には、適用される規則に従い適切に廃棄物を分類し処分する方法を用いているかどうかを判断するため、生成された物質の毒性と物質特性を判断する責任がある。
廃棄物で土壤や地下水を汚染したり、環境を破壊したりしてはなりません。
環境、下水管または水路へ廃棄しないこと。
タンクの水は地表に放出して廃棄しないでください。廃棄すると土壤と地下水を汚染します。
漏出やタンク清掃から生じる廃棄物は、関連法規を遵守し、

Shell Paraol 250

版番号 1.1

改訂日 2024.07.26

印刷日 2024.11.04

免許を有する専門の収集業者または請負業者に依頼することが好ましく、適切に処分してください。収集業者または請負業者が適格性を有することを事前に確認してください。

製品の廃棄物、流出物、または使用済み製品は、危険p棄物です。

廃棄処分は、地域、国、地方の適切な法律及び条例に従うべきである。

現地の条例は、地域又は国の必要条件よりも厳しいこともあり、遵守しなければならない。

MARPOL - 船舶による汚染の防止のための国際条約 (MARPOL 73/78) は、船舶からの汚染物質を抑制する技術的側面を提供します。

汚染容器及び包装

- : 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。内容物を除去後は、火気を避け安全な場所で通風すること。残留物は爆発の危険を生じることがある。汚れたドラム缶に穴をあけたり、切削あるいは溶接しないこと。容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に沿って適切な処分を行うこと。現地の回収または廃棄物処理規制を遵守すること。

14. 輸送上の注意

国内規制がある場合の規制情報

国の特定の法規制は、項目15を参照する。

国際規制

ADR

危険物として規制されていない

IATA-DGR

危険物として規制されていない

IMDG-Code

危険物として規制されていない

IMO機器に従って一括で海上輸送

大量海上輸送では、MARPOL規則が適用されます。

特別の安全対策

非該当

Shell Paraol 250

版番号 1.1

改訂日 2024.07.26

印刷日 2024.11.04

15. 適用法令

関連法規

消防法

第四類, 第三石油類, 非水溶性液体, (2000 リットル), 危険等級 III

化審法

特定化学物質、監視化学物質、優先評価化学物質に該当しない。

労働安全衛生法

製造等が禁止される有害物

非該当

製造の許可を受けるべき有害物

非該当

健康障害防止指針公表物質

非該当

変異原性の認められた化学物質（既存化学物質）

非該当

変異原性の認められた化学物質（新規届出化学物質）

非該当

名称等を通知すべき危険物及び有害物

非該当

名称等を表示すべき危険物及び有害物

非該当

特定化学物質障害予防規則

非該当

有機溶剤中毒予防規則

非該当

毒物及び劇物取締法

非該当

化学物質排出把握管理促進法

非該当

船舶安全法

非該当

航空法

非該当

Shell Paraol 250

版番号 1.1

改訂日 2024. 07. 26

印刷日 2024. 11. 04

海洋汚染等及び海上災害の防止に関する法律

海洋汚染物質には該当しない

水質汚濁防止法

油分排出規則（法第2条5項、施行令第3条の4）

廃棄物の処理及び清掃に関する法律

産業廃棄物

この製品の成分について各国インベントリーへの記載情報：

TSCA : 全成分リストアップされている。

ENCS : 全成分リストアップされている。

16. その他の情報

危険有害性情報の全文

H304 飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ。

その他の略語の全文

Asp. Tox. 誤えん有害性

略語および頭字語

AIIIC - オーストラリアの工業化学品インベントリ; ANTT - ブラジル国家輸送機関; ASTM - 米国材料試験協会; bw - 体重; CMR - 発ガン性、変異原性、生殖毒性があるとされる物質; DIN - ドイツ規格協会基準; DSL - 国内物質リスト (カナダ); ECx - 任意の X%の反応を及ぼすと考えられる濃度; ELx - 任意の X%の反応を及ぼすと考えられる負荷割合; EmS - 緊急時のスケジュール; ENCS - 化審法の既存化学物質リスト; ErCx - 任意の X%の反応を及ぼすと考えられる成長率; ERG - 緊急対応の手引き; GHS - 世界調和システム; GLP - 試験実施規範; IARC - 国際がん研究機関; IATA - 国際航空運送協会; IBC - 危険化学品のばら積運送のための船舶の構造及び設備に関する国際規則; IC50 - 50%阻害濃度; ICAO - 国際民間航空機関; IECSC - 中国現有化学物質名録; IMDG - 国際海上危険物規程; IMO - 国際海事機関; ISHL - 労働安全衛生法 (日本); ISO - 国際標準化機構; KECI - 韓国既存化学物質名録; LC50 - 50%致死濃度; LD50 - 50%致死量 (半数致死量); MARPOL - 船舶による汚染の防止のための国際条約; n. o. s. - 他に品名が明示されているものを除く; Nch - テリ規則; NO(A)EC - 無有害性影響濃度; NO(A)EL - 無有害性影響レベル; NOELR - 無有害性影響負荷割合; NOM - メキシコ公式規則; NTP - 米国国家毒性プログラム; NZIoC - ニュージーランド化学物質台帳; OECD - 経済協力開発機構; OPPTS - 化学物質安全性・公害防止局; PBT - 難分解性・生体蓄積性・有毒性(物質); PICCS - フィリピン化学物質インベントリー; (Q)SAR - (定量的)構造活性相関; REACH - 化学物質の登録、評価、認可および登録 (REACH) に関する規則 (EC) No 1907/2006; SADT - 自己加速分解温度; SDS - 安全データシート; TEGI - タイに既存の化学物質のインベントリ; TCSI - 台湾化学物質インベントリー; TDG - 危険物輸送; TSCA - 有害物質規制法(米国); UN - 国連; UNRTDG - 国際連合危険物輸送勧告; vPvB - 非常に難分解及び非常に高蓄積性; WHMIS - 作業場危険有害性物質情報システム

詳細情報

安全データシート

Shell Paraol 250

版番号 1.1

改訂日 2024.07.26

印刷日 2024.11.04

安全な取扱いのため : 本情報は安全確保のため参考情報として取扱事業者には提供されるものです。取扱事業者は、これを参考として、自らの責任において、個々の取扱い等の実態に応じた適切な処置を講ずることが必要であることを理解した上で、活用されるようお願いいたします。

その他の情報 : 左欄外の垂直バー（|）は、前バージョンの修正を示す

引用文献 : 引用データは、Shell Health Servicesの毒性データ、材料サプライヤーのデータ、CONCAWE、EU IUCLIDデータベース、EC 1272規制など、複数の情報源から得られたものです。

記載内容は、現時点で入手できる資料、情報にもとづき、当該製品の安全な取り扱い、使用、処理、保管、輸送、廃棄、漏洩時の処理等のために作成されたものですが、記載されている情報はいかなる保証をするものではなく、品質を特定するものでもありません。また、この SDS のデータはここで指定された物質についてのみのものであり、指定されていない工程での使用や、指定されていない材料と組み合わせた使用に関しては有効ではありません。

JP / JA